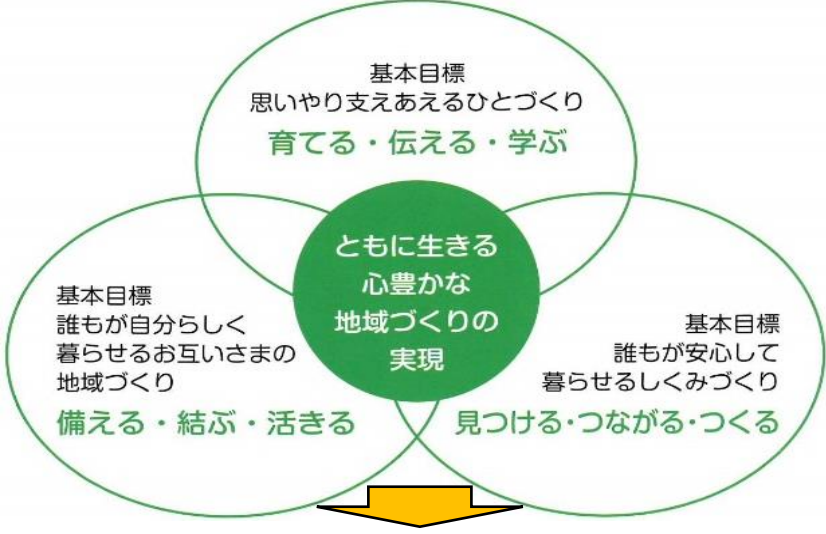


令和5年度 ボランティア育成事業
(ボランティアセンター事業)
計画書

○箕輪町社会福祉協議会 第4期地域福祉活動計画 (令和3年～8年)



箕輪町ボランティアセンター6年間（令和3年から令和8年）の重点目標

- 1 今の時代にあった分かりやすい情報発信・ボランティアの魅力発信
⇒ボランティア活動の魅力、良いところを伝えることで活動の輪を広げる
- 2 ボランティアを身近に感じる事業、取り組み
⇒ボランティアは特別ではない、身近に感じられるような企画・取り組みの実施
- 3 無理なく、短時間でも参加できる活動の場づくり
⇒かぎられた時間の中でも気軽に参加、体験できるような企画
- 4 活動を実感できるようなサポート
⇒ボランティア活動者がやりがいや楽しみをもって活動を継続できるようなサポート
- 5 これからのボランティアの形を考える
⇒情報化社会、働き方や定年が延長される中、これからのボランティア活動の在り方について考える。

ボランティア活動の推進と地域づくりのイメージ

(令和3年～令和8年)

(1) 人づくり(福祉教育) (2) 情報の収集・発信

(3) マッチング
(コーディネート)

(7) ネットワーク
づくり

箕輪町ボランティアセンター
7つの機能

(4) ボランティア活動者
のサポート

(6) 社会資源の開発 (5) 災害ボランティアセンターの設置準備・運営

ボランティア活動の推進・活性化

令和3年度 ボランティアセンター運営委員会にて検討

《令和3～8年までの6年間の重点取り組み事項》

- ①今の時代にあった分かりやすい情報発信・ボランティアの魅力発信
- ②ボランティアを身近に感じる事業、取り組み
- ③無理なく、短時間でも参加できる自由な活動の場づくり
- ④活動を実感できるようなサポート
- ⑤これからのボランティアの形を考える



より暮らしやすい町(地域)づくり

ボランティア推進に
期待される効果

- ◎活躍の場、役割がある地域
 - ・私が活躍できる場がある
 - ・価値観が広がる、成長できる
 - ・心が豊かになる
 - ・楽しみがある

- ◎地域力が高い地域
 - ・関心が高い
 - ・問題、課題解決
 - ・災害に強い

- ◎つながりが広い地域
 - ・仲間ができる
 - ・ネットワークが広がる
 - ・新しい活動が生まれる

(1) 人づくり（福祉教育）

ボラセン事業の柱として、人材育成を進めます。

1、ちよいボラ

目的：無理なく気軽に参加できるような自由なボランティア体験の機会づくり。

内容：町内の企業や団体等と連携して、単独ではなく協働で行うボランティア。年 回程度実施する。

◎ぶらりゴミひろいイベントの開催ほか

2、第33回ふれあい広場

目的：人と人とのふれあいや交流を目的にする福祉の広場。

開催時期：9月下旬～10月上旬を予定 → 9月17日（日） 予定

会場：箕輪町文化センター及び地域交流センター

3、上伊那ブロックボランティア交流研究集会

目的：上伊那郡内のボランティア活動者同士の研修、交流

開催日：12月2日（土） 開催事務局：伊那市

④、社会福祉普及校指定事業

社協独自予算

目的：学校教育における福祉教育の推進を目的とする。

内容：町内7校を社会福祉普及校に指定し、25,000円を交付し福祉教育の教材費等に活用して頂く。

5、福祉体験講座

目的：福祉体験や学習会を通して、将来の福祉人材育成を推進する。

内容：（小・中・高）学校、企業、サークル等の場に職員、地域講師が出向き、福祉教育を推進する。

⑥、リサイクル活動の推進（リサイクル活動の会事務局）

リサイクル活動の会独自予算

目的：誰でもできる身近なボランティア活動として、リサイクル活動の推進を進める。

内容：学校、保育園、地域、民間企業と連携、また関係性を築き、ボランティア活動の裾のを広げていく。

(2) 情報の収集・発信

令和5年度の重点内容・ポイント

- ・社協に登録していなくても行われているボランティア活動の情報キャッチや、活動の見える化に力を入れます。
- ・また、ボランティア活動（取り組み）の結果をタイムリーに発信し、リピーターの増加を目指します。

1、箕輪町ボランティアセンターLINE公式アカウントの充実

目 的：幅広い世代（特に若い世代）へ、タイムリーに情報を届けることでボランティア活動を推進。

発信内容：①ボランティア募集情報 ※随時募集情報を更新していきます。

②ボランティア活動情報 ※ボランティア活動者の情報

③行事・イベント講座情報

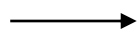
④補助金情報

⑤災害ボランティア等に関する情報

登録目標：令和3年7月…30人

3月…92人

令和4年10月現在 … 122人



令和5年登録者数目標 …300人

情報発信 月2回前後/月

社協主催情報以外のボランティアニーズ発信に力を入れる

(3) ニーズのマッチング（コーディネート）

1、ボランティア相談窓口の開設

目 的：社会福祉協議会（ゆとり荘）にボランティア相談窓口を随時開設する。

また、ボランティアコーディネーターが積極的に活動場所へ訪問し、ニーズの掘り起こしを行う。

2、活動希望者と支援希望者（活動場所）をマッチングする

箕輪町ボランティアセンター公式LINEを積極的に活用し、求められているボランティア情報を伝えていきます。

ボランティアの募集情報が分かる一覧表を随時更新し、タイムリーな情報発信を心がけます。

(4) ボランティア活動者支援

1、ボランティア登録・活動保険加入の促進

ボランティア登録のメリット再検討
(保険補助140円、福祉センター使用無料以外)

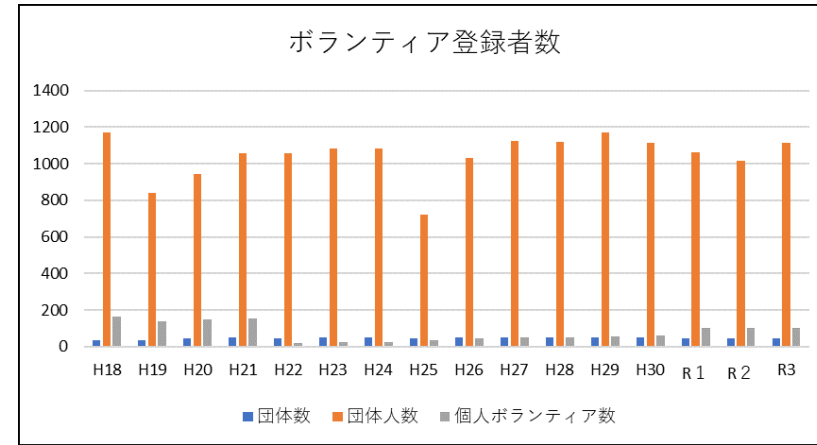
②、ボランティア団体活動応援金 ※R4～5の2年間事業

予算：30万(社協会費より)

社協独自予算

①新規立ち上げ団体 → 3万円×2団体 (6万)

②既存の団体 → 2万円×12団体 (24万)



ボランティア団体活動補助金について

新型コロナウイルス感染症の影響により団体活動が規模縮小または自粛が長期化していることを受け、令和4年度に実施したWithコロナボランティア団体活動応援金を令和5年度も実施します。ボランティア団体活動補助金については、要綱の見直しや改善等のご意見があることを受け、令和5年度は委員の皆様とも協議し検討する年とします。

3、こども食堂活動応援金

予算：15万(フードバンク寄付金より)

対象：こども食堂に取り組む団体 2万円×団体数

4、ボランティア登録団体活動状況調査の実施

ボランティア登録団体の現況を調査し、今後の事業推進の参考とする。

また新型コロナウイルス感染症の影響による活動自粛状況を再確認し、活動再開に向けたサポートを行う。

実施期間：5月中旬～6月下旬

5、ボランティア登録団体活動PR動画作成

ボランティア団体の活動PRを兼ねて動画を作成。

第31回ふれあい広場動画(12団体をHPで公開中)の他、令和5年度は新たに10団体予定。

(5) 災害ボランティアセンターの設置準備、運営

1、災害ボランティアセンター開設・運営訓練の実施

目的：有事の際に、災害ボランティアセンターが適切に機能できるように事前の体制を整える。

開催日：訓練は2年に1回の開催予定 ※訓練方法を要検討。

(6) 社会資源の開発

箕輪町の課題解決に不足している資源の開発を進める。

①、フードバンクみのわ事業の推進

社協独自予算

目的：「もったいないをありがとうへ」をキーワードに、

①気軽に参加できるボランティア活動の場として推進する。

②生活に困っている方への支援の1つの社会資源として運営する。

内容：令和2年2月1日より、フードバンクみのわ事業を設置。

食料を社協にて保管し、必要な方へ提供する。

(7) ネットワークづくり

ボランティアセンター事業のサポート、メンバーのふれあい・交流の場づくりを目的にした活動。

令和5年度は、連携と協働を意識し取り組みを進める。

1、福祉教育担当者連絡会（考える会）

目的：福祉教育に取り組む学校、施設、ボランティア、講師、当事者のネットワーク構築、思いの共有を進め、福祉教育を推進する。

開催：年2回（6月、2月頃）

②、ふれ愛サポーターズ事務局

社協独自予算

ゆとり荘 畑サポート
ボラセン事業 サポート
活動拠点をゆとり荘へ

ボランティアセンター事業のサポート、メンバーのふれあい・交流の場づくりを目的にした活動

3、ボランティアセンター運営委員会の組織（2023年4月1日～2025年3月31日）

箕輪町のボランティア活動推進について、ボランティアセンターが適切に運営、機能できているかの評価機関とする。
（従来は事業の企画運営も行っていた）

委員：15名 会議：5月、7月、10月、3月（年4回予定）